

令和 2 年

奥州市総合教育会議
会議録

第 1 回定例会 7 月 22 日開催

奥 州 市

1 開会、閉会等に関する事項

開催日時 開会 令和2年7月22日（水）午後4時

閉会 令和2年7月22日（水）午後5時30分

開催場所 市役所本庁 7階 特別委員会室

2 出席者の職及び氏名

小 沢 昌 記 市 長

田面木 茂 樹 教育長

吉 田 政 教育委員（教育長職務代理者）

高 橋 キ エ 教育委員

及 川 憲太郎 教育委員

藤 田 登茂子 教育委員

3 説明のため出席した職員

（教育委員会事務局）

千葉昌教育部長、及川協一教育総務課長、佐藤利康学校教育課長、

鈴木常義歴史遺産課長

（協働まちづくり部）

浦川彰部長、岩渕清彦生涯学習スポーツ課長

事務職員出席者：菊池長教育総務課長補佐

4 主要議題

奥州市の教育施策に関する意見交換

①「ICTを活用した教育環境の整備について」（GIGAスクール構想の推進）

②「特別支援教育の充実について」（特別支援教育支援員の増員等）

5 協議の概要

開会、市長・教育委員長挨拶、主要議題の協議

開会前 表彰状授与「全国都市教育長協議会表彰」 市長から田面木教育長へ授与

第1 開会

千葉教育部長が開会を宣言

以降の日程のうち第3までは千葉教育部長が進行、第4以降についてはテーマに従い小沢市長が座長となり議事を進行。

第2 市長挨拶

今回は、①「ICTを活用した教育環境の整備について」と②「特別支援教育の充実について」の二つのテーマについて意見交換を行うこととした。

お集まりいただいた教育委員各位と意見交換しながら課題解決の方向性を探って参りたい。

その他、出席者各位より教育施策全般について御提言いただき、本市の教育における方向性の明確化や、具体的な施策への反映を図ってまいりたい。

第3 田面木教育長挨拶

平成27年4月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、開催することとされた会議である。年度において2回の定例会を開催することとしているが、これまでの会議においては、奥州市教育振興基本計画を市の教育における大綱に位置付けることの決定や、市の教育における重点施策である『学力向上』と『健全育成・生きる力を育むこと』、また、市立教育施設等の再編といったテーマに対して、市長及び教育委員各位より意見をいただいていた。

今回は①「ICTを活用した教育環境の整備について」と②「特別支援教育の充実について」の二つのテーマとして、出席者各位より意見を頂戴し、奥州市の教育における方向性の明確化や、具体的な施策への反映を図ってまいりたい。

第4 協議事項

①「ICTを活用した教育環境の整備について」（GIGAスクール構想の推進）

【内容説明】

及川教育総務課長が資料に基づいて説明。

【協議】

市長：我々団塊の世代生まれからすると、上手く使いこなせるか心配。Padを使えないということは、基本的には車が運転できないという非常に不便な部分があるのだろう。ICT環境を整えることに関しては、極めて重要なこと。

教育長：課題は、教師主導型から子どもたち一人一人が自分の考えを主張するという仕組みに変えてゆくこと。教える側が切り換えていかないと。タブレットやコンピューターの整備は一つの手段で目的ではない。今後、検証も含めて進めていく。

吉田委員：お金がないと言っていた時代から、子供たちの可能性を信じてお金をかけるという時代が変わった。高価なものを子供に与えても主体的に使いこなせないと宝の持ち腐れになる。教師が本気になって子どもたちと向き合い、意欲を持って使いこなさないと良くならない。教師の研修やサポート体制をつくり、使いこなすところまでを考えていくことが必要。

高橋委員：子どもたちにとってICT環境の整備は必要と思う。ICT環境整備が、教師の多忙に一定の効果があると聞く。子どもに向き合う時間が増えれば、一人ひとりに合った支援ができ、特別支援学級の支援にもつながる。新型コロナの影響でICT環境整備が前倒しとなったが、ぜひ進めて欲しい。本来であれば、モデル校で始め確認しながら進めてゆけば良かった。ワーキングで検討しながら、より良い環境整備を進めて欲しい。ICTの進んでいる民間や異業種の方の意見も取り入れても良い。

及川委員：ICT環境の整備により遅れていた環境から全国と同レベルとなる。深い学びをするのが目的であり、タブレットや電子黒板の整備は手段。先生方の負担増への対応や積極的な学びを進めることができるためのサポートが必要。機器の導入とサポートを同時に進めないと、成果に結びつかない。W

i f i 環境整備の遅れが、学びの差にならないようにしたい。

藤田委員：朝日新聞の首都圏 200 校に行った新型コロナの影響による授業のアンケートで、私立学校の 60%がオンライン授業をスムーズにできた、公立でも双方向のオンライン授業ができたということで、新しいスタイルで授業ができることはとても良いと思った。横浜市では 800 本の動画をつくり配信し、地元のテレビ局と提携しテレビ授業を実現するなど、様々な工夫をしている。

先生がすごく良いことを書いた教材を黒板に貼っても、生徒が見えない時があったが、そういう時こそタブレット配信し皆が見られることは効果的。タブレットを使って児童の進捗状況に合わせた、きめ細やかなフォローで成績向上に結び付いた事例もある。

画面を見つめることで、視力低下の問題もあり、注意喚起してゆかなければと感じる。

小沢市長：ギガスクール構想により国の補助金を活用して進めるべきだというのが教育委員会の意向と感じた。I C Tの推進により教師の多忙を解消できるという話と、スキルアップのために教師一人ひとりの努力が必要という相反することが気になった。教師による教材作成の能力の差が出てしまうことも課題。

コロナ関連の2次補正でG I G Aスクールの整備を国が推奨している。収入が減っても政府の補助を受けられない市民がいることから、果たしてI C T環境整備が良いのかと考えるところもある。ただし、この機に整備しないと生徒一人1台は実現しないし、近隣自治体が整備すると公言しているなかで整備しないわけにもいかない。W i f i 環境は即整備すべきだが、L T Eでの整備では、通信がゲームに使われるなど私物化される恐れがある。パソコンにつながらない家はほとんど無い。タブレットを自宅まで持ち帰らせるのもどうかなと思う。新しく入学する子どもは中古になってしまう。タブレットを9年使うかという問題もある。一定の補助を出して個人に購入して頂く方法もあるが、自己負担の場合は国の補助金が出ないので補助の部分は全て市の負担となる。

学校の情報通信環境の整備はすぐ進めるべきであり、先生の本気度が問われてくる。目的と手段をはき違えることなく、子どもたちのために、どういう学びが良いのか努力して欲しい。

学力がなくても、いろんな人とのコネクションがある人は強い。困った時には相談できる人を見つけられる人が生きる力のある人。タブレットでつながることも大切だが、リアルに人と付き合っ、いざというときに助け合える友達づくりも大切。

テーマ②「特別支援教育の充実について」（特別支援教育支援員の増員等）

【内容説明】

佐藤学校教育課長が資料に基づいて説明。

【協議】

小沢市長：市内全生徒 8,500 人のうち6%が何らかの障害をお持ちで、それら

に丁寧に対応しており、サポートする側の人数が足りていない。こういう子どもたちのために、ICTを活用し、自由な時間を使いながらサポート環境を作っていくのも良い。一人ひとり違って当たり前で、個性の一つと認め合うことも必要。

教育長：一人ひとり違って良い。学校では支援の児童が多く困っていることも事実。学校に入る前の手立てをすることが大切。幼稚園等と連絡を密にして繋がりを持って対応していくことが必要。

藤田：知り合いの小学2年生のお子さんが、普通教室に入り一人だけ違う行動をとってしまい、医療機関をすぐ受診してくださいと言われたが、県内では専門に診てくれる病院が少なく受診予約が1年先と言われ、悩んでしまったという話を聞いた。支援員の先生の話では、担当の先生と意見が合わない時に先生の意見に従わざるを得ない時があり、かなり精神的に大変だという。支援員の方は1年更新の契約なうえ、時間で帰らなくてはいけないので、自分が帰るときの子どものヘルプをどうするかなど悩みが多い。その割には、実際の補償は低いと感じているようだ。

及川委員：人材の確保と財源は難しいと思うが、今いる支援員へのサポートをしっかりするべき。児童からの暴言等があるようであればカウンセリングの機会を設けるなどのサポートが必要と思う。

高橋委員：児童数が減っているなかで特別支援の児童数は増えている。子どもたち一人ひとりを認め支援することが大切。支援は大変なので、年度途中でも人材を探してほしい。支援の必要な児童が増えていることを市民は知らないで、支援員の養成講座等を開催し、支援教育の必要性を広め理解いただくようにしてほしい。

小沢市長：認知されていることを広め、皆で支え合う社会の後押しが必要。

吉田委員：40年前に特別支援の担当をした。当時は県内でも支援員自体が少なかった。幼稚園や市の専門員が保護者の特性を調べ、就学前の指導を徹底した。子どもの特性を知って、親と話し合い納得してもらうなど入学前の観察指導が大事。子どもに合った教育方法を話し合ってゆくことが必要。

小沢市長：小学校に上がる前の指導が大事。親御さんには、子どもの特性をしっかりお伝えし、サポートすることが必要。親への教育の必要性を感じる。

吉田委員：自分の子どもは手が掛からなかったという親がいて、その子どもが自閉症だったということがあった。親が分かっていないこともあるので、就学前の指導は必要。

支援が必要な児童が多いことから、ぜひ予算を付けていただきたい。

第5 その他 なし

閉会